

資料 4-①
令和 4 年度第 2 回
沖縄総合事務局
開発建設部
事業評価監視委員会

事業評価監視委員会審議資料

【再評価事業】
○国営沖縄記念公園

沖縄総合事務局開発建設部

國營沖繩記念公園 再評価資料

令和4年 12月19日
沖繩綜合事務局開発建設部

目 次

I .事業の概要	·····	1
II .事業の効果・必要性	····	6
III.事業の進捗状況	····	22
IV.今後の対応方針(原案)	··	24

I. 事業の概要

- 国営沖縄記念公園は、沖縄の本土復帰を記念する事業の一環として、昭和50年度に開催された「沖縄国際海洋博覧会」の跡地に整備を進めている「海洋博覧会地区」(以降、海洋博地区)と、昭和61年度より首里城の復元を進めている「首里城地区」からなる国営公園である。

事業の概要

事業名	国営沖縄記念公園	
種別	口号国営公園※	
地区名	海洋博覧会地区	首里城地区
閣議決定	沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置 (S50.7.15閣議決定)	沖縄復帰記念事業として行う都市公園の整備 (S61.11.28閣議決定)
位置	国頭郡本部町	那覇市
基本方針等	<p>■テーマ 太陽と花と海</p> <p>■基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①沖縄にふさわしい公園とともに、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園とする。 ②沖縄国際海洋博覧会の記念事業としてふさわしい公園とする。 ③日本だけではなく外国の人々にも利用される公園とする。 ④海との調和を十分考慮する。 ⑤亜熱帯気候を十分考慮し、四季を通じて利用できるものとする。 ⑥歴史的・文化的資源を生かした公園とする。 	<p>■基本的理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ①歴史の拠点としての首里城 ②伝統文化の拠点としての首里城 ③首里城復元の意義 <ul style="list-style-type: none"> ◎貴重な国民文化遺産の回復 ◎新たな県民文化の創出 ◎伝統技術の継承と発展 ◎歴史的風土探訪の場の形成 <p>■基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①首里城構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。 ②歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。 ③将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。 ④文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。
都市計画決定	昭和51年3月	昭和62年2月
計画面積	約77.2ha	約4.7ha
供用面積 (R4.6時点)	約71.8ha	約4.7ha(うち公開している面積 約4.0ha)
R3年間利用者数 (内はH30利用者数)	約96万人 (H30:約498万人)	約35万人 (H30:約281万人)

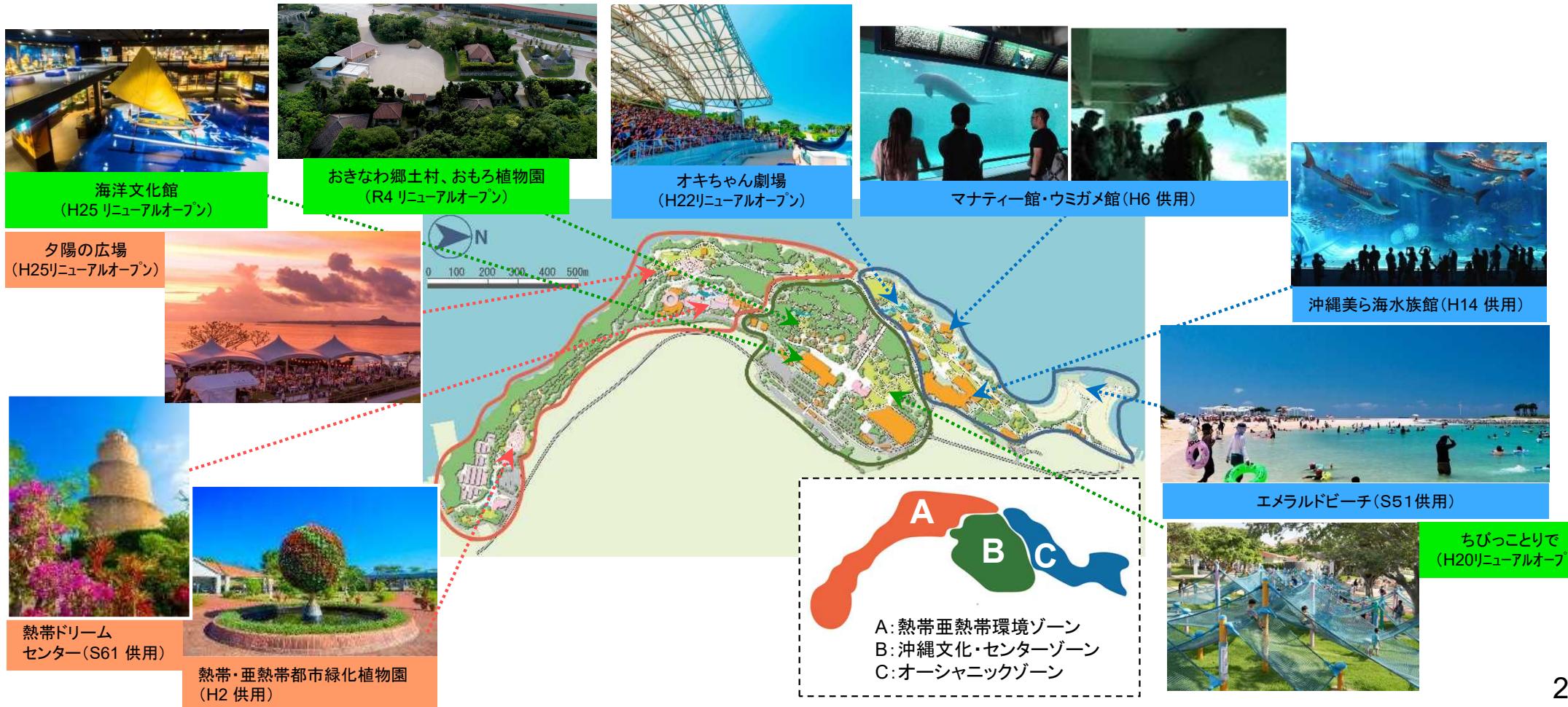
位置図



※口号国営公園: 国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地。
(都市公園法第2条第1項第2号口)

I. 事業の概要・・・開園区域の概要(海洋博地区)

- ・海洋博地区は、昭和51年度に旧水族館、旧オキちゃん劇場、海洋文化館、夕陽の広場、エメラルドビーチなどの海洋博覧会時の政府出展施設を主体に約36haの供用を開始した。
- ・供用開始以降、ちびっこりで、おきなわ郷土村、おもろ植物園、熱帯ドリームセンター、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、マナティー館、ウミガメ館、イルカラグーン、沖縄美ら海水族館、オキちゃん劇場などを供用し、現在の供用面積は約71.8haとなっている。



I. 事業の概要・・・開園区域の概要(首里城地区)

- ・首里城地区は、平成4年度に正殿等を第Ⅰ期開園区域(約1.7ha)として供用を開始した。
 - ・供用開始以降順次整備を進め、平成31年2月に計画面積約4.7haを全面供用した。
 - ・同年10月31日に発生した火災により、正殿・南殿・北殿をはじめとする9施設が焼失し、現在公開している面積は約4.0haとなっている。

主な供用年度と施設



西のアザナ

平成12年度
西のアザナ展望デッキ完成



京の内

平成15年度
京の内(約0.7ha)供用

平成19・20年度

書院·鎖之間(約0.1ha)

書院·鎮之間庭園(約0.1ha)供用



書院・鎖之間(焼失)

黄金御殿・寄満・近習詰所(焼失)



世誇殿 平成31年度（約0.2ha）供用



東のアザナ 平成31年度 供用



正殿(燒失)

平成4年度
天殿布中心計画(約13%)供用

I. 事業の概要

…平成29年度(前回評価時)以降の主な整備箇所

海洋博地区



H29年度以降の主な改修・供用箇所



③馬場遊具広場
R3.4供用



④水の階段
R3.4供用



⑤ハイサイプラザ
R4.4供用



①じんぶんBOX
R4.4供用



②ゆくいの
R4.4供用



茅葺民家補修・サイン展示 R3.4供用



沖縄の精霊キジマー



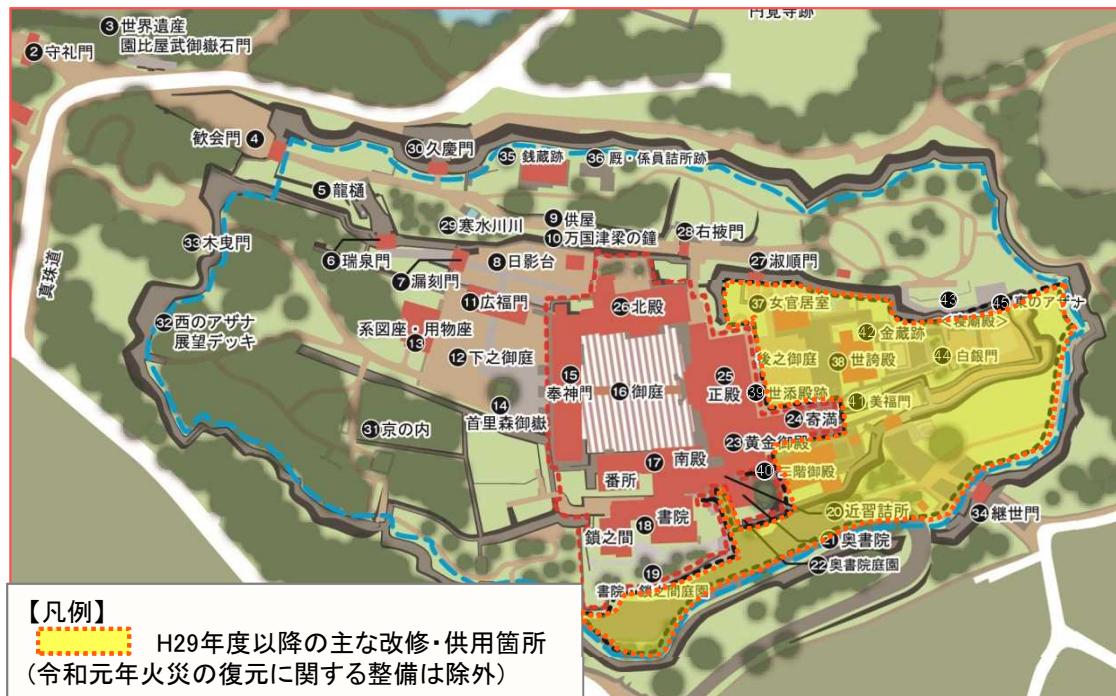
壁紙
おきなわ郷土村から壁紙をプレゼント!
郷土村探検クイズ観定で、沖縄郷土村【ゆくいの花】
にて放映されているオリジナルアニメの壁紙をダウ
ンロードできます。



I. 事業の概要

…平成29年度(前回評価時)以降の主な整備箇所

首里城地区



④3寝廟殿 H31.2供用



④4白銀門 H31.2供用



④2金蔵跡 H31.2供用



④5東のアザナ H31.2供用



④0二階御殿 H31.2供用



④7女官居室 H31.2 供用



④9世誇殿 H31.2 供用



④1美福門 H31.2 供用

Ⅱ.事業の効果・必要性

・・・国営沖縄記念公園の位置づけ

・国営沖縄記念公園は都市計画法及び都市公園法に基づき、国家的記念事業として閣議決定を経て整備されている国営公園である。

都市計画法（昭和四十三年法律第百号）

第十一條 都市計画区域については、都市計画に、次に掲げる施設を定めることができる。この場合において、特に必要があるときは、当該都市計画区域外においても、これらの施設を定めることができる。

- 一 道路、都市高速鉄道、駐車場、自動車ターミナルその他の交通施設
- 二 **公園、緑地、広場、墓園その他の公共空地**

第五十九条 都市計画事業は、市町村が、都道府県知事（第一号法定受託事務として施行する場合にあっては、国土交通大臣）の認可を受けて施行する。

- 3 国の機関は、国土交通大臣の承認を受けて、国の利害に重大な関係を有する都市計画事業を施行することができる。

都市公園法（昭和三十一年 法律第七十九号）

第二条

二 次に掲げる公園又は緑地で国が設置するもの

□ **国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地**

閣議決定（海洋博地区、首里城地区）

■沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置（昭和50年7月15日閣議決定）

沖縄県国頭郡本部町において開催される沖縄国際海洋博覧会の会場（約100ヘクタール）の跡地に、

沖縄国際海洋博覧会記念公園（仮称）を設置し、国により整備する。

■沖縄復帰記念事業として行う都市公園の整備（昭和61年11月28日閣議決定）

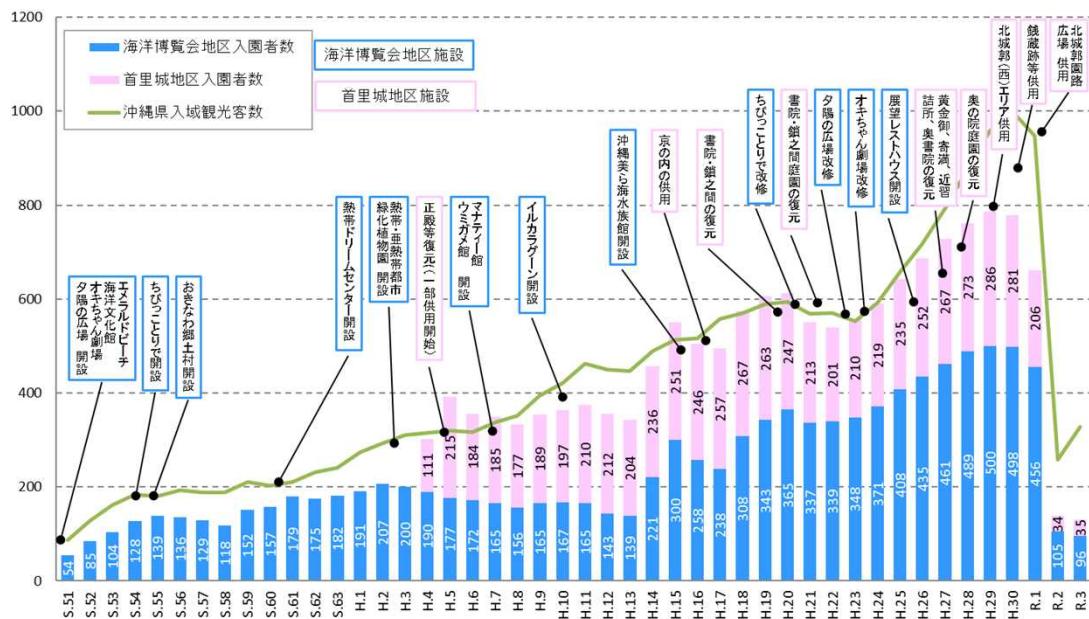
沖縄の復帰を記念する事業の一環として、**首里城跡地**（沖縄県那覇市首里城跡地の面積約4ヘクタール）の区域を

国営沖縄記念公園首里城地区、昭和50年7月15日閣議決定（沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置について）された国営沖縄海洋博覧会記念公園を国営沖縄記念公園海洋博地区として整備する。

新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・新型コロナウイルスの影響が出る前の平成30年度の公園利用者数は、約779万人（海洋博地区498万人、首里城地区281万人）であった。
- ・新型コロナウイルスの影響が出始めた令和元年度は、約662万人（海洋博地区456万人、首里城地区206万人）となった。
- ・新型コロナウイルスの影響が本格的に出始めた令和2年度は、平成30年度から約8割減少の約139万人（海洋博地区約105万人、首里城地区約34万人）となった。
- ・令和3年度も減少傾向は続き、入園者数は約131万人（海洋博地区96万人、首里城地区35万人）となっている。

入域観光客数と入園者数の推移(年度)



閉園状況(首里城地区・海洋博地区)及び緊急事態宣言等一覧

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	2/29～4/18 一部休園											
R1												
R2		4/19～5/31 全面休園			8/2～9/5 一部休園							1/20～2/28 緊急事態宣言
R3		4/23～5/31 緊急事態宣言			8/1～9/5 緊急事態宣言		5/23～7/12・7/22～9/30 一部休園					1/9～2/20 まん延防止
R4							4/12～5/22 まん延防止	5/23～9/30 緊急事態宣言・緊急事態措置				

凡例

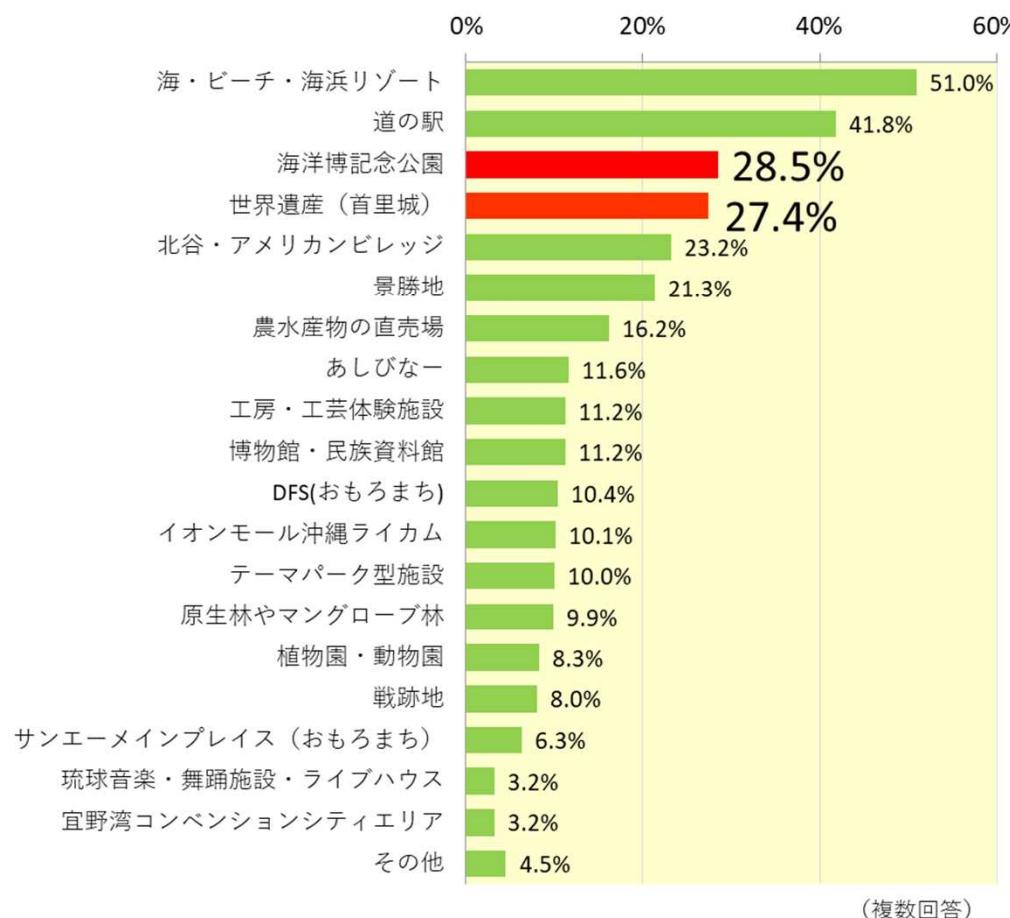
- 閉園
- 一部閉園
- 沖縄県におけるまん延防止 発令期間
- 沖縄県における緊急事態宣言・緊急事態措置 発令期間

II.事業の効果・必要性…観光客の誘客

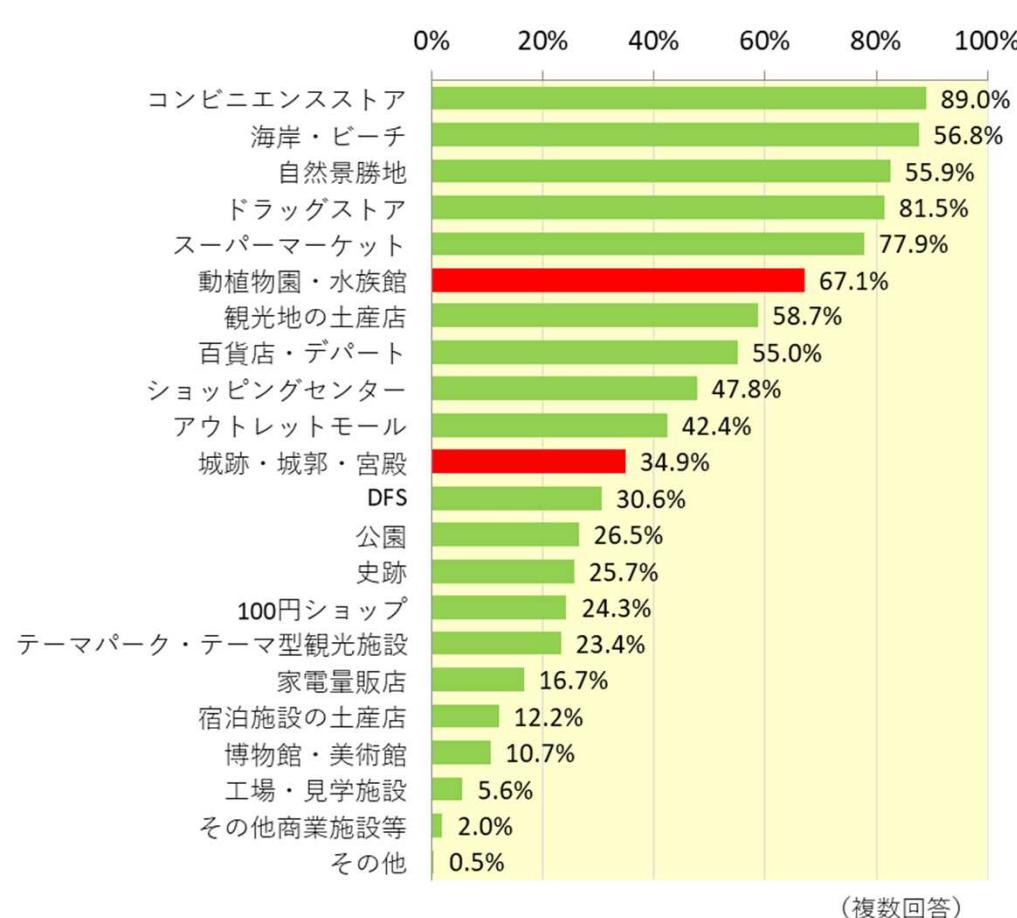
■沖縄への観光客の誘客に大きく貢献

・国営沖縄記念公園は、空路で沖縄県に訪れた県外日本人観光客、外国人観光客の沖縄での訪問先の上位を占めている。

沖縄での県外日本人観光客訪問先(空路調査)



沖縄での外国人観光客訪問先(空路調査)

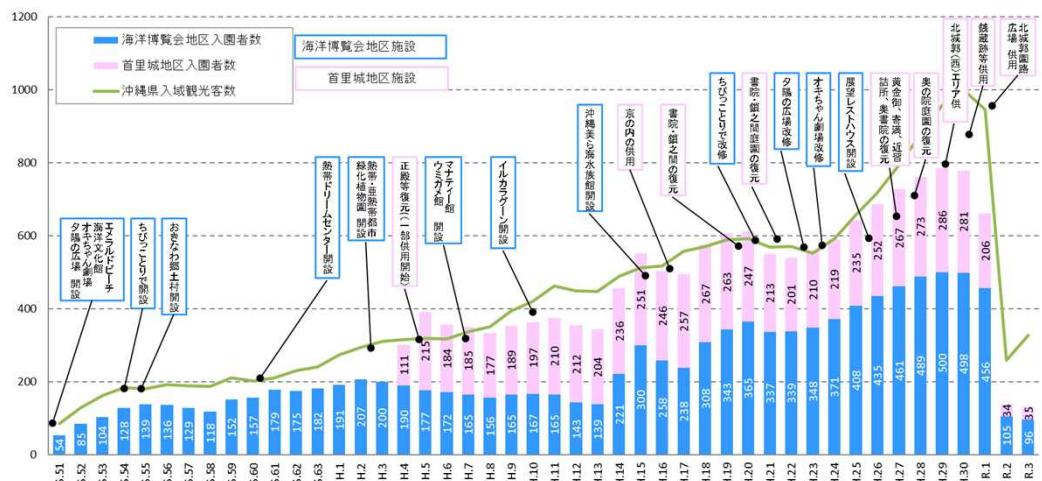


II. 事業の効果・必要性…観光客の誘客、観光収入の増加

■ 沖縄への観光客の誘客や沖縄県の観光収入の増加に大きく貢献

・コロナの影響が出始める前年の平成30年度の入域観光客数は、約1,000万人(6年連続で過去最高を更新)であるのに対し、国営沖縄記念公園の来園者数は約779万人となっている。これは入域観光客数の約8割にあたり、沖縄観光の中核施設になっていると言える。(新型コロナウイルスの影響が大きく始めた令和2年度は入域観光客数は約258万人、国営沖縄記念公園の来園者数は約139万人となり、沖縄記念公園の入園者数が入域者数に占める割合は約5割程度となっている。)

沖縄県への入域観光客数と国営沖縄記念公園の来園者数の推移



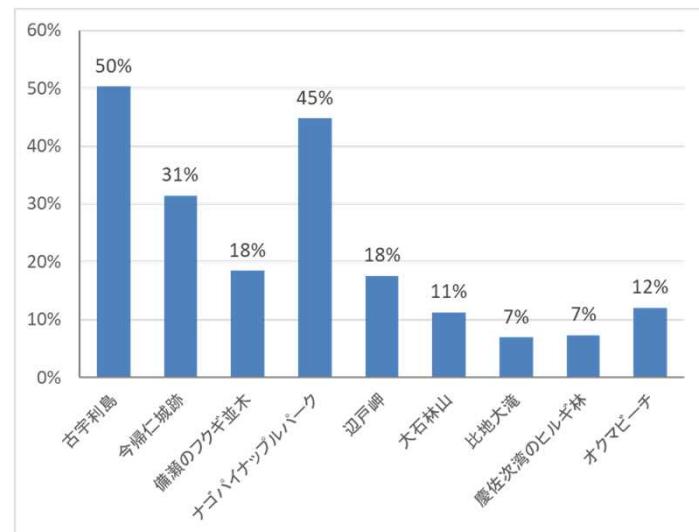
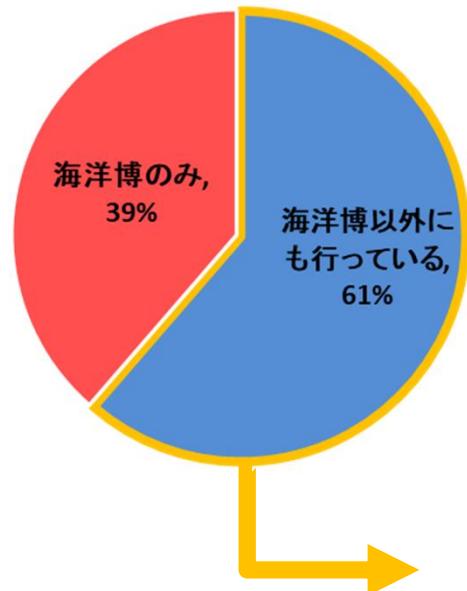
II. 事業の効果・必要性

・・・本島北部地域への観光客の誘客

■本島北部地域内の他の観光地等への誘客にも貢献

- ・海洋博地区は、本島北部地域の振興を図ることも、その重要な役割のひとつ。
- ・海洋博地区への訪問した県外日本人観光客の約61%が北部地域内のその他の観光施設にも立ち寄つておる、北部地域内の観光地・観光施設への誘客にも貢献していると考えられる。

海洋博地区への訪問を主目的とした県外日本人観光客の北部地域内の観光地等への立ち寄り状況



海洋博地区を訪問した県外日本人観光客の約61%が北部地域内のその他の観光施設にも立ち寄る

データ:WEBアンケート調査(R4.6実施) (N:1,000票、複数回答あり)

※H29年以降の海洋博地区来訪経験者を対象に実施



古宇利島



今帰仁城跡
(今帰仁村)

写真:OCVB



備瀬のフクギ並木



ナゴパイナップルパーク

II.事業の効果・必要性…海外での沖縄観光のPR

■海外での沖縄観光のPRに大きく貢献

・国営沖縄記念公園では、沖縄観光の中核施設として、沖縄観光コンベンションビューロー等と連携した海外への情報発信の他、海外の様々なメディアからの取材、ロケを積極的に受け入れることにより、海外での沖縄観光のPRに大きく貢献している。

取材・ロケの代表例

海洋博地区

○香港:ネットドラマ「天目危機」
撮影:2018年7月17日

○シンガポール:
TVドラマ「インターネットから抜け出せない」
撮影:2019年1月8日

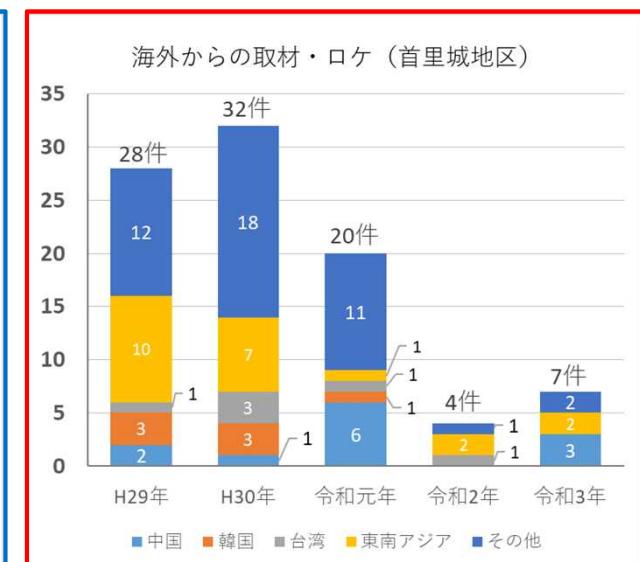
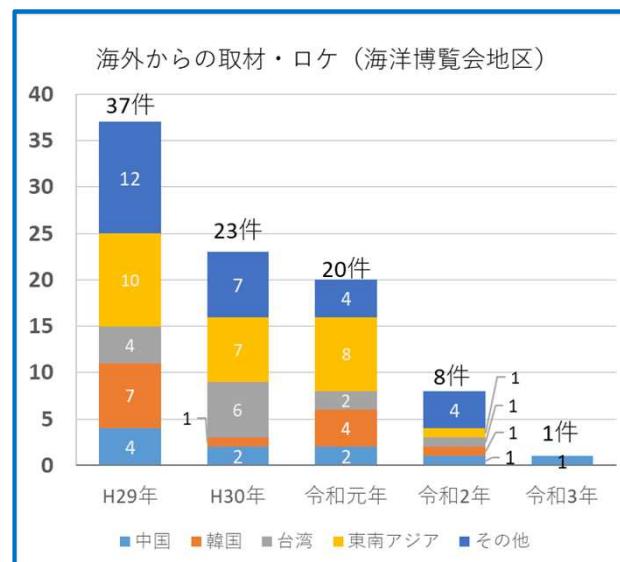
○台湾:オンラインイベント「台湾ガーデン」
撮影:2020年12月13日

首里城地区

○韓国:「The Story of Master」
撮影:2018年11月28日

○オーストラリアテレビ:「HOP STEP JAPAN(仮)」
撮影:2019年1月31日・2月1日

○沖縄観光国際化ビッグバン事業「上海における料理体験イベントを活用した沖縄観光プロモーション業務」
撮影:2021年12月16日



韓国映画「めんそ～れ食堂ハナ」
(沖縄美ら海水族館)



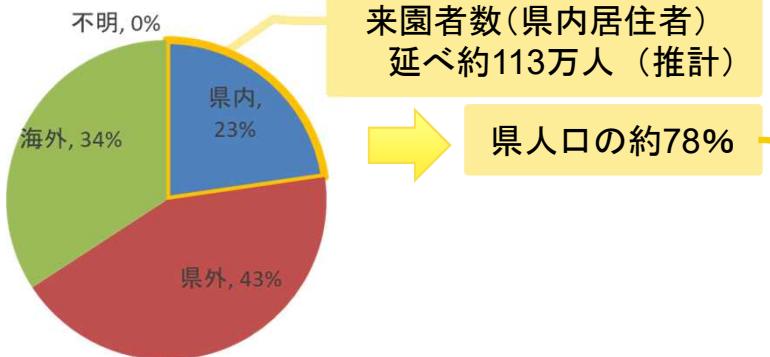
アーチストビューロー(シンガポール)
取材風景(首里城地区)

II. 事業の効果・必要性…沖縄県民の余暇活動の場

■ 沖縄県民への余暇活動の場の提供に大きく貢献

- ・国営沖縄記念公園への来園者のうち県内居住者は、平成30年度において両地区合計で延べ約134万人（県人口の約93%に相当）、令和3年度において両地区合計で延べ約67万人（県人口の約46%に相当）となっている。
- ・新型コロナウイルスの影響を受け利用者数は減少しているものの、県人口の約半数が利用しており、沖縄県民の余暇活動の場の提供に大きく貢献しているといえる。

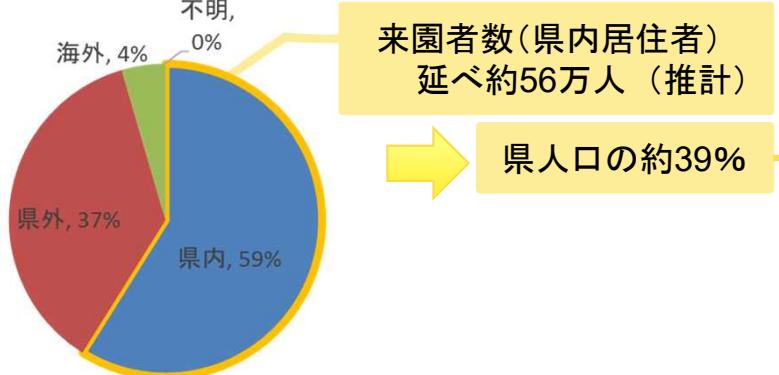
H30年度 海洋博地区



来園者数(県内居住者)
延べ約113万人（推計）

県人口の約78%

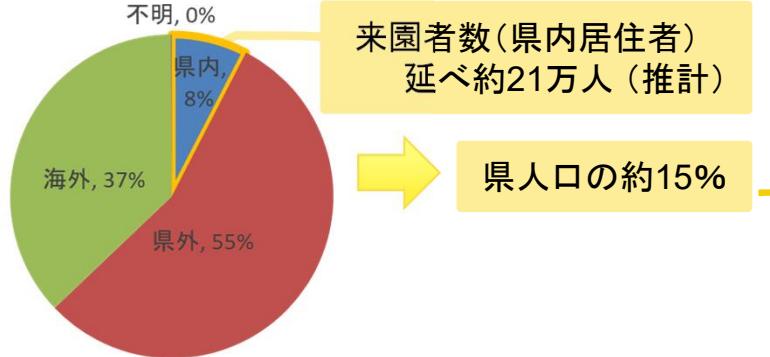
R3年度 海洋博地区



来園者数(県内居住者)
延べ約56万人（推計）

県人口の約39%

H30年度 首里城地区



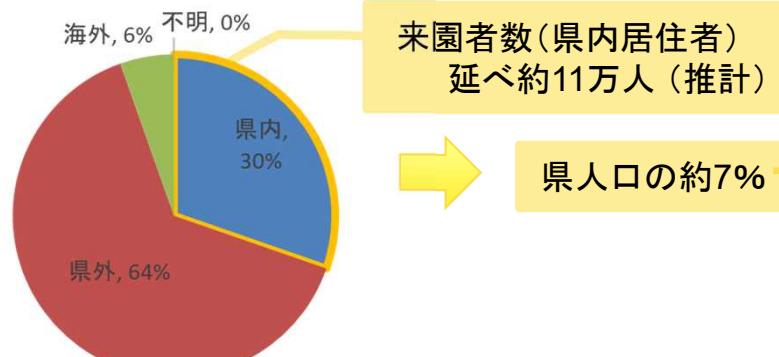
来園者数(県内居住者)
延べ約21万人（推計）

県人口の約15%

来園者数
(県内居住者)合計
延べ約134万人
(推計)

沖縄県の人口の
約93%に相当する。

R3年度 首里城地区



来園者数(県内居住者)
延べ約11万人（推計）

県人口の約7%

来園者数
(県内居住者)
合計
延べ約67万人
(推計)

沖縄県の人口の
約46%に相当する。

Ⅱ.事業の効果・必要性

・・・四季を通じた沖縄観光振興や地域活性化

■四季を通じた沖縄観光振興や地域活性化に貢献

- ・国営沖縄記念公園では、園内施設や沖縄の気候・風土を生かして季節毎に多様なイベントを開催しており、年間を通じて沖縄観光振興や地域活性化に貢献している。

季節ごとの主なイベント

春

2月～4月

全国に先駆けた春を体感できるイベントで観光客を誘致



美ら海花まつり(海洋博地区)



沖縄国際洋蘭博覧会(海洋博地区)
来館者数約3万人(2/2～2/11期間中)

夏

5月～9月

サマーフェスティバルは県内最大級の夏のイベントとして定着



サマーフェスティバル(海洋博地区)
来園者数約4万人



ウミガメ放流会(海洋博地区)

秋

10月～11月

地域と連携した秋のイベントとして地域活性化に貢献



中秋の宴(首里城地区)
入場者数約1,600人



首里城祭(首里城地区)
来園者約7万人(期間中)

冬

12月～1月

冬季の沖縄観光の目玉として観光客を誘致



新春の宴(首里城地区)
来園者数約3.8万人(期間中)



全国トリムマラソン(海洋博地区)
来園者数約2万人

Ⅱ.事業の効果・必要性

・・・首里城地区：沖縄の歴史・文化の保全・継承

■沖縄の歴史・文化の保全・継承に貢献

- ・首里城地区については、首里城の遺構が、平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録される等、沖縄の歴史・文化の保全・継承に貢献している。

世界遺産に登録

- 平成12年12月に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして「世界遺産」に登録。



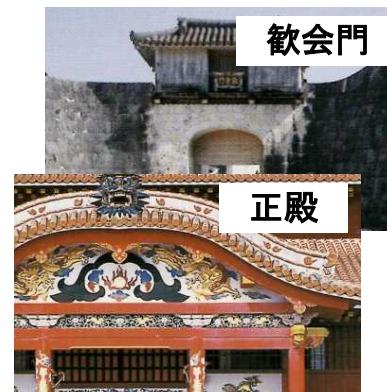
「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

残存する記念工作物は、数世紀にわたって、琉球列島が東南アジア・中国・朝鮮半島、及び日本との間の経済的・文化的交流の中心としての役割を担ったことを鮮明に証明している。(登録基準より)

琉球王国独自の貴重な歴史・文化遺産の回復

- 首里城は、日本や中国の建築様式を巧みに摂取して造営された城郭。

- 彫刻や彩色と建築が調和し城壁の石組みにも独自の造形と高度な技術が發揮されている。



琉球の伝統技術の継承と発展の場として活用

- 年間を通じて、沖縄固有の歴史・文化に関わる祭事、芸能を実施。



地元の漆職人により復元作業を実施



紅型染め付け体験

- 復元建物等の維持・修繕のための調査研究・人材育成により伝統技法の復活・継承に寄与。

- 紅型染め付けなどを体験しながら沖縄の伝統的な工芸技術を学ぶイベントを実施。

Ⅱ.事業の効果・必要性

・・・海洋博地区：沖縄の歴史・文化の保全・継承

■沖縄の歴史・文化の保全・継承に貢献

- ・海洋博地区では、おきなわ郷土村、おもろ植物園、海洋文化館等の整備や沖縄の歴史・文化を楽しく学べる行催事を通じ、沖縄の歴史・文化の保全・継承に貢献している。

沖縄の歴史・文化の保全・継承のための施設整備

○おきなわ郷土村

琉球王国時代～明治22年頃までの沖縄の村落の様子を忠実に再現。令和4年のリニューアルオープンで体験学習や郷土村を舞台としたアニメ・舞踊等を披露する場としてゆくい処等が新たに供用された。その他各種サインの更新や、郷土村内の各民家を周遊して回答するARクイズが新設された。



おきなわ郷土村全景



おきなわ郷土村内展示物



上:ゆくい処外観
左上:ゆくい処舞台
左:ゆくい処アニメ

沖縄の伝統文化の継承の場として活用

○茅葺民家の屋根の葺替えを体験しながら沖縄の伝統的な建築技術を学ぶイベントを実施。



葺替え体験



葺替え工事の様子を見学



有識者による学習会の開催

○体験学習の場としての活用



○沖縄の海洋文化を学ぶイベントを実施



琉球舞踊(本部町内琉舞教室)



エイサー(名桜大学)

○おもろ植物園

12～17世紀にかけて謡われていた沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」に登場する22種類の植物を植栽展示



おもろ植物園の植栽展示風景

○じんぶんBOX

沖縄の文化を書籍・アニメ・VR等展示で伝える施設として令和4年に開園



おもろ植物園の 沖縄の過去の文化を 沖縄の文化に
植物の解説 伝えるVR 因んだアニメ

○海洋文化館

沖縄をはじめアジア・南太平洋地域の人間と海との関わりを示す様々な漁具・船・生活用具等を収集展示

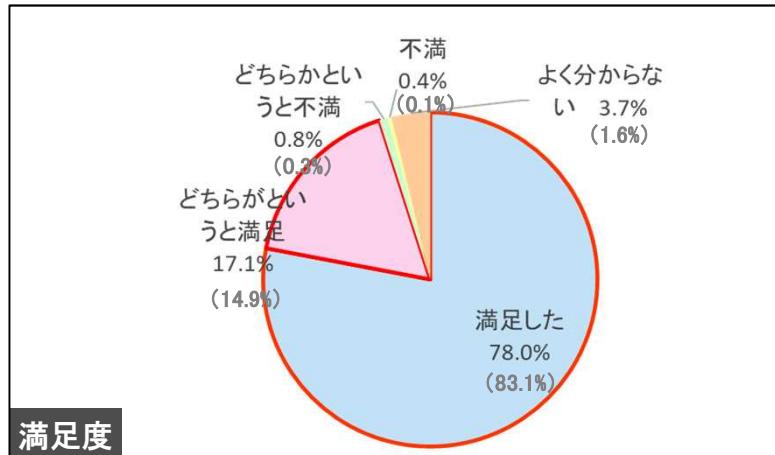


Ⅱ. 事業の効果・必要性…満足度

- ・来園者のうち、海洋博地区ではその約95%、首里城地区ではその約90%が「満足」、「どちらかというと満足」と回答している。
- ・来園者のうち、海洋博地区ではその約100%、首里城地区ではその約99%が再来園する意向をもっている。

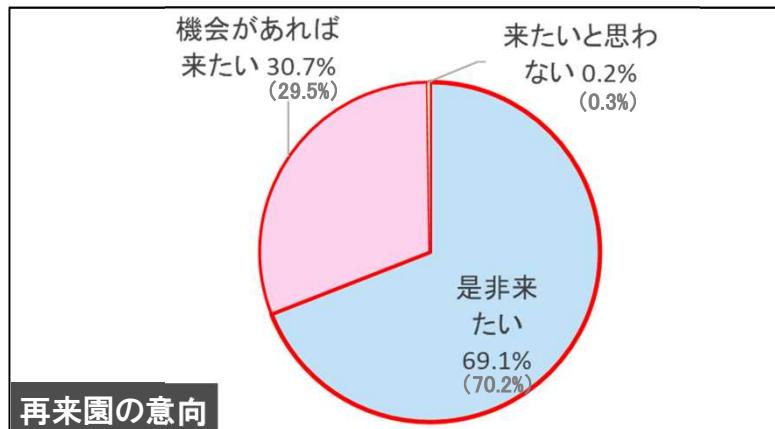
海洋博地区

海洋博公園には満足されましたか？



満足度

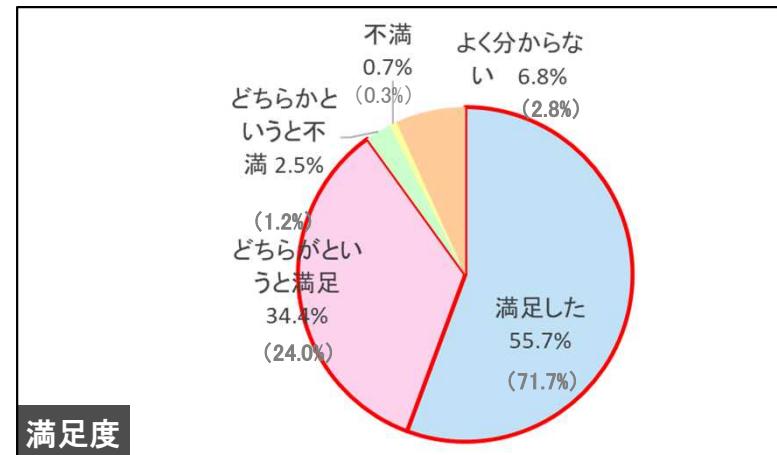
海洋博公園にまた来たいと思いますか？



再来園の意向

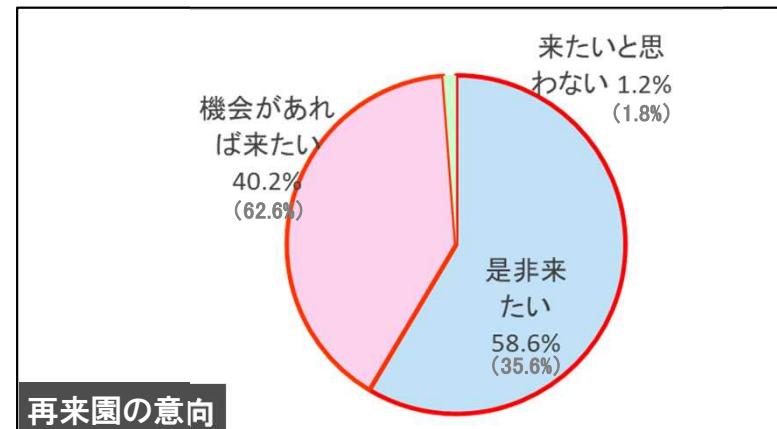
首里城地区

首里城公園には満足されましたか？



満足度

首里城公園にまた来たいと思いますか？



再来園の意向

データ: R3年度利用実態調査
()内はH29年度利用実態調査結果

Ⅱ. 事業の効果・必要性…自然環境の保全

■ 沖縄の貴重な自然環境の保全に貢献

- ・海洋博地区の海岸沿いには、自然の砂浜や海崖、斜面樹林が残されており、また、地先の海はサンゴ礁に囲まれている。
- ・このように多様な自然環境が残されていることにより、海洋博地区は、沖縄の自然を代表する数多くの貴重な動植物が生息する重要な空間となっている。

公園内の貴重な動植物
公園内では多数の貴重な小動物、昆虫、鳥類や植物種が確認されており、そのうち33種類の動植物は絶滅危惧種として環境省や沖縄県レッドデータブックに登録。

リュウキュウオオコハク
リュウキュウアショウガニ
リュウキュウコガラ
フタオチョウ
熱帯・亜熱帯都市緑化植物園
夕陽の広場
展望レストハウス
オキチャム劇場
イルカラグーン
ウミガメ館
マオアーツ館
エメラルドビーチ
チビっこりで
総合案内所(ハイサイフラザ)
海洋文化館
沖縄美ら海水族館
おきなわ郷土村
あもし植物園
熱帯ドリームセンター
県道114号
パンコの森
ウミガメの産卵地
海洋博地区の砂浜にはウミガメが毎年産卵に訪れるが、沖縄本島での産卵が珍しい「タイマイ」も産卵に訪れる。
公園内で産卵が確認されると、産卵場所の保全対策を講じる等、ウミガメの繁殖及び繁殖地の保全活動を実施している。

海洋博公園の断面(概念図)
高低差約55m
凡例
-----:既存林の保全・再生ゾーン

ビーチクリーンボランティア
海洋博地区の海岸(非開放エリア)に漂着するゴミを、ボランティアを募集して清掃している。ゴミは飲料ボトル等の生活用品や漁業用品等で流出国、サイズ、材質は多種多様。ゴミが流出した理由や流出防止方法、ゴミが生物にもたらす影響等を考える機会になっている。清掃作業後は潮間帯の生物観察を行い、環境保全の意識醸成に寄与している。

ヤシガニの繁殖地の北限
海洋博地区はヤシガニの繁殖が確認された世界最北端の地域。
これまで公園内で自然環境の保全を図ってきたことにより、ヤシガニの生息地として極めて貴重な空間が形成され、ヤシガニの保全に寄与している。

サンゴ礁生態系の保全に向けた先端モデル地域
海洋博地区地先のサンゴ礁は、国営公園として海岸線が保全されたことにより、沖縄島では数少ない陸域近くのサンゴの被度が高い海域であり、沖縄県の重要なサンゴ礁海域に指定されている。
貴重なサンゴ礁生態系の保全のため1988年から約30年間に渡ってモニタリング調査を行っており、サンゴ礁に関する情報発信基地としての役割も果たしている。

Ⅱ.事業の効果・必要性…首里城の復元のために国営沖縄記念公園の総事業費を変更する必要性

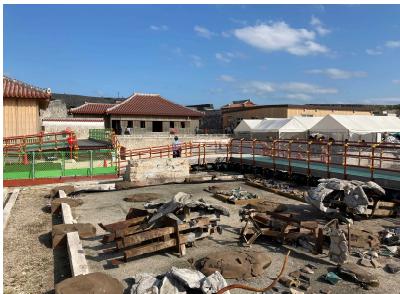
- 令和元年10月に首里城地区で発生した火災により首里城正殿をはじめとする9施設が焼失したため、その復元及び二度と火災等を発生させないための防災・防火対策の強化費用として現行の総事業費から286億円不足する。
- よって、今般国営沖縄記念公園の総事業費を増額変更することとする。
- 復元工事のため、事業期間は令和12年から令和19年に延伸することとする。

総事業費・事業期間

	前回の事業再評価時(H29年度)	変更後
総事業費	1,365億円	1,651億円 (+286億円)
事業期間	令和12年	令和19年

増額した事業費の使途(内容)

- 焼失した9施設の復元及び二度と火災等を発生させないための防災・防火対策の強化を図る。



復元工事の様子



新たに拡充される防災設備
(スプリンクラー等)



新たに拡充される防災設備
(連結送水管)



新たに拡充される防災設備
(新設水槽)

Ⅱ.事業の効果・必要性…費用対効果分析

- ・公園整備によって生じる価値は、「利用価値」と「非利用価値」に大別される。
- ・「改訂第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」では、評価対象を利用価値とし、直接利用価値は「旅行費用法」、間接利用価値は「効用関数法」による評価手法が示されている。
- ・本分析では、直接利用価値について沖縄本島内居住者と本島外居住者に分け、便益を計測した。

【公園整備によって生じる価値体系と評価手法】

価値分類	機能	価値の種類(例)	本島内便益	本島外便益
利用価値	直接利用価値	健康・レクリエーション空間の提供	健康促進、心理的な潤いの提供、レクリエーションの場の提供、文化的活動の基礎、教育の場の提供	旅行費用法(TCM)
	間接利用価値	都市環境維持・改善、都市景観	緑地の保全、動植物の生息、生育環境の保存、ヒートアイランド現象の緩和・二酸化炭素の吸収、森林の管理・保存、荒廃の防止、季節感を享受できる景観の提供、都市形態規制	効用関数法(UMF)
		都市防災	災害応急対策施設の確保、火災延焼防止・遅延、災害時の避難地確保、復旧・復興の拠点の確保	
		地域活性化	洪水調整、地下水涵養、強固な地盤の提供、防風・防潮機能	
	オプション価値	現在は利用しないが、将来の利用を担保することによって生じる価値		
非利用価値	存在価値	公園が存在することを認識すること自体に喜びを見出す価値		
	遺贈価値	将来世代に残すことによって生じる価値		

Ⅱ.事業の効果・必要性

・・・費用対効果分析(事業全体・残事業)

1) 事業の投資効果……費用対効果分析(事業全体)

・ 便益(B)

「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」に基づき、便益(B)は直接利用価値と間接利用価値で求める。

【直接利用価値】

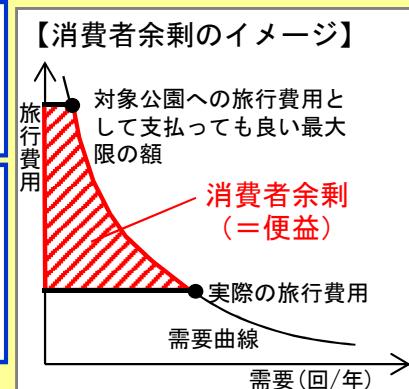
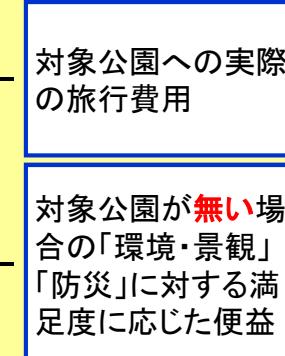
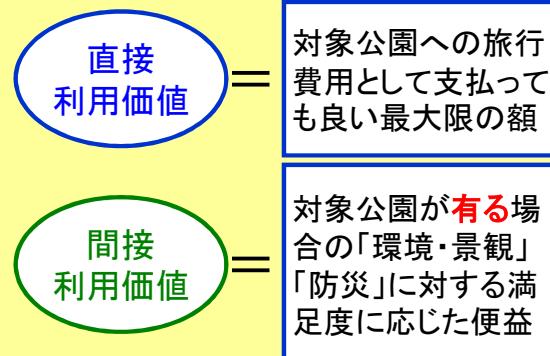
実際の旅行費用以上に支払ってでも公園を利用したいとする価値(消費者余剰を算出)

【間接利用価値】

公園が存在することによる環境・景観、防災面の価値(満足度の差に応じた便益)

・ 費用(C)

公園整備に係る建設費(用地費+施設費)及び維持管理費で算出



2) 事業の投資効果……費用対効果分析(残事業)

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{事業を継続した場合の便益} - \text{事業を中止した場合の便益}}{\text{事業を継続した場合の費用} - \text{事業を中止した場合の費用}}$$

公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(共通編)(国土交通省 平成21年6月)

■ 算出条件等

基準年 : 令和4年度

評価期間 : 昭和51年度～令和69年度

社会的割引率: 4%

適用した費用便益分析マニュアル:

大規模公園費用対効果分析手法マニュアル

改訂第4版(平成29年4月(平成30年8月一部改訂))

総事業費(総建設費): 1,651億円(用地費+施設費)

Ⅱ.事業の効果・必要性…費用対効果分析

事業全体

便益 (B)	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益比(B/C)
	38,248億円	979億円	39,228億円	
費用 (C)	建設費	維持管理費	総費用	6.98
	3,566億円	2,053億円	5,619億円	

※便益・費用は、現在
価値化した値

残事業

便益 (B)	①事業を継続した場合の便益	②事業を中止した場合の便益	便益(①-②)	費用便益比(B/C)
	39,228億円	38,771億円	457億円	
費用 (C)	③事業を継続した場合の費用	④事業を中止した場合の費用	費用(③-④)	1.41
	5,619億円	5,295億円	324億円	

※便益・費用は、現在
価値化した値

感度分析

変動要因	B/C			備考
	-10%	通常ケース	+10%	
需要量	6.87	6.98	7.09	R05年度以降の単年度便益を±10%変動
費用	7.03		6.93	R05年度以降の建設費、維持管理費を±10%変動
工期	6.97		7.00	供用年を±10%変動

III.事業の進捗状況…今後の事業概要

事業の進捗状況

	総事業費	評価年度末進捗	進捗率
今回評価(R4)	1,651億円	1,283億円 (R4年度末)	77.7%
参考 前回評価時(H29)	1,365億円	1,169億円 (H28年度末)	85.6%

今後の事業概要(工程表)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
海洋博地区															
首里城地区															

熱帯・亜熱帯環境ゾーンの既存施設の改修

大規模災害の発生に備えた災害応急対策施設等の整備の予定

既存施設・設備の更新等

焼失施設の復元

海洋博地区



首里城地区



III.事業の進捗状況

…今後の主な事業概要 首里城地区焼失施設の復元

・令和元年10月31日に焼失した正殿をはじめとする9施設の復元を進めるとともに防災・防火対策の強化を図る



④5二階御殿



⑦17南殿・番所



⑧18書院・鎖之間



⑩20近習詰所



⑪21奥書院



⑫23黄金御殿



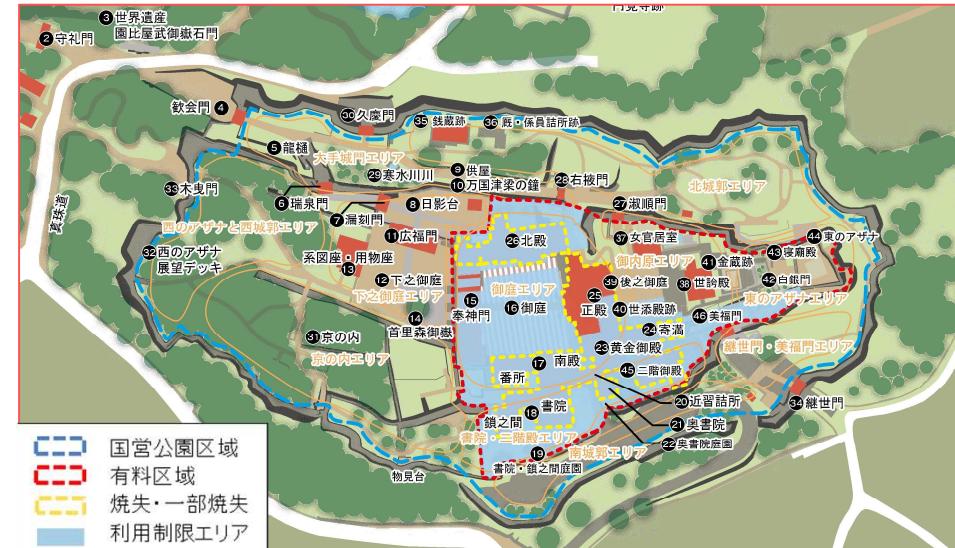
⑬24寄滿



⑭25正殿



⑮26北殿



首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

(年度)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9以降
正殿	材料調達 (大径材)	市場調査							
	設計	基本設計	実施設計						
	材料調達 (大径材)		調達・乾燥						
	工事	仮設道路 がれき撤去		木材倉庫	発注手続(WTO)	本体工事			
北殿、南殿等		撤去 検討	正殿復元の施工ヤードとして使用						工事

出典:令和4年度首里城公園事業概要

IV.今後の対応方針(原案)

1) 事業の必要性等に関する視点

- ・国営沖縄記念公園は、両地区合わせた年間の来園者数が131万人（R3年度）（来沖者数の40%）に達する等、**沖縄観光の中核施設**となっており、**沖縄の観光振興に大きく貢献**している。
- ・また、多くの沖縄県民にも利用されており、**沖縄県民への余暇活動の場の提供**にも大きく貢献しているほか、四季を通じた様々なイベント等の開催による**地域活性化等**や**沖縄の歴史・文化の保全・継承**、**沖縄の貴重な自然環境の保全**にも大きく貢献している。
- ・**首里城地区は、令和元年10月31日に焼失した正殿をはじめとする9施設の復元**及び**防災・防火対策の強化**を進める必要がある。このため、国営沖縄記念公園としては、**首里城焼失施設の復元**および、**海洋博地区の既存施設の更なる魅力アップ等**のための改修等に積極的に取り組んでいく必要がある。
- ・**費用便益比（B／C）は、6.98。**

2) 事業の進捗の見込みの視点

- ・令和4年度末時点における事業の進捗率は、**事業費ベースで77.7%**、**面積ベースで92.6%**となっている。
- ・今後とも引き続き、**首里城焼失施設の復元**および**既存施設の更なる魅力アップ等**のための改修等について計画的に推進する。

3)コスト縮減や代替案立案の可能性の視点

- ・**既存施設の改修・再整備に合わせて民間活力の導入を検討する**など、**魅力向上とコスト縮減を両立させる取り組み**を推進する。
- ・**魅力の低下した既存施設・設備の廃止や集約化**を行い、**維持管理コスト縮減**を推進する。

以上のことから、国営沖縄記念公園の事業を継続することが適切である。